

医療政策講演会

元朝日新聞編集委員・田辺氏
半世紀の取材活動から
医療改革を提言



講師の田辺氏

医療政策研究室は4月7日、第3弾の医療政策講演会を開催。講師に元朝日新聞編集委員でジャーナリストの田辺功氏を講師に招き、「ここを変えたい／日本の医療」を演題に講演いただいた。田辺氏は講演で、半世紀にわたる取材活動を振り返り、医療改革を提言した。北海道から宮崎まで全国から73名が参加し、医師は38名、歯科医師18名、マスコミも多かった。田辺氏は朝日新聞・大阪本社時代に大阪協会とともに開業医宣言の叩き台を作成、当協会提唱の「医療費

察・裁判は社会部、医療内容は科学部、生活・家庭部が扱うと紹介。医療は患者本位が基本であり、自身は記者時代から一貫し、「患者のための医療の実現」を目標に、①治せる医療の紹介、②患者に役立つ制度の実現へと報道を心がけてきたと強調。その上で、16世紀のフランス王室の公式外科医のアンブロワーズ・パレが「患者が求めるのは、①病気の治癒、②症状の改善、③痛み軽減、④癒しの傾注がより必要ではないか」と問いかけた。自著『お医者さん知らない治療法

7年の「ドキュメント医療」で消える薬、生存率に差がある病院の実力、医師の自殺と医療行政、貧しい人に冷たい行政、質を問わぬ診療料、長時間勤務「ミス」の原因、過酷な救急、医師の暴言の実相など、数々の医療の不思議と課題を欧米諸国との比較も交えて問みで消える薬、生存率に差がある病院の実力、医師の自殺と医療行政、貧しい人に冷たい行政、質を問わぬ診療料、長時間勤務「ミス」の原因、過酷な救急、医師の暴言の実相など、数々の医療の不思議と課題を欧米諸国との比較も交えて問

は、①質の軽視、②「治す」医療の軽視、③救急の軽視と、踏み込んだ。不採算で消防と同格の救急医療は、「30年間一日」のたらい回しであり、ドクターヘリで15分以内診療のドイツとの格差や、多剤服薬の実態なども突き付けた。

「治す」医療への期待を力説
医療改革の主体は医師・患者

後半は医療の治療内容に關しても論及。3疾病で患者の半数を占める高血圧、糖尿病、高脂血症に關し、賛否が分かれる治療法も次々と紹介。うつ病、精神病、認知症、腰痛なども取り上げ、治す方法への努力の傾注が必要ではないかと問いかけた。自著『お医者さん知らない治療法

薬の知識、医の倫理・目的、患者対話法」など縦横無尽に展開した。

最後田辺氏は、医の倫理確立や「質」重視の医療への転換へ向け、①「治す

「当面の医療運動」では、新たに大阪協会の「ゼロの会」団体賛同が報告

（議長・竹下）

事後抄録

歯科臨床研究会

小児の口腔機能管理

口腔機能発達不全症の対応

浜野 美幸氏

歯科臨床研究会は4月3日、小児の口腔機能管理／口腔機能発達不全症の対応」を協会会議室とWEB併用で開催。講師は千葉歯科医科長・浜野美幸氏が務め、215名が参加した。

主張
OTC類似医薬品の保険外しは
第一線医療「崩壊」の危機

現役世代の保険料負担軽減等を理由に、日本維新の会や日本総研の研究員が提案する「OTC類似医薬品の保険適用除外による医療費1兆円削減」は、患者を守る開業医医療の危機であり、国民皆保険制度の根幹を揺るがす問題でもある。

漢方・痔疾用剤など、あらゆる診療科に影響を及ぼす。医療費抑制論の中で、軽度医療の保険外しという論が根強くある。OTC類似医薬品の保険外しも

この問題は経済面だけでなく、患者の健康にも悪影響を及ぼす危険を孕む。当然のことだが、OTC類似医薬品は本家本元薬剤師の対面販売や情報提供が義務付けられているが、いずれ必要とされる取扱いになっている。ネット購入が可能となった昨今、セルフメディケーション（自己判断治療）推進の考え方には危険が伴う。事実、スイッチOTCのガスターの自己判断による長期服用が、スキルス胃がんを隠すとして社会問題化した過去もあり、軽視すべきではない。

しかし、OTC類似医薬品の保険外し推進側は、こうした医療や医薬品への理解、無診察の保険外し導入を阻止する必要がある。

講演後のアンケートでは、「口腔の変化に気づく新たな視点が増えた」と多くの方が書かれていた。付きました。特に子どもの育成環境は保護者が整備するもので、保護者の悩みを聞いて親支援をするスタンスが大切でしょう。対応については、「指摘と指導はセット」と説明しました。アンケートには「学校健診では健診で終わりましたが事後が大切ということを知

りました」「経過観察は見るだけでなく、アドバイスや訓練を行うこと」とあり、形・機能・心不全症の対応」を協会会議室とWEB併用で開催。講師は千葉歯科医科長・浜野美幸氏が務め、215名が参加した。

「食べることにスペシャリストである歯科医療関係者は、食事にも関わっており、大切な情報を周知啓発する必要があると思います。そして「高齢者にも必要なことつながりがあることわかった」とありましたように、生涯の健康の礎は小児期にあることから、多くの方に取り組んでいただきたいと思っています。

＊協会HPで動画配信中。